



谷原小だより 9月号

平成 23 年 9 月 1 日
練馬区立谷原小学校
校長 眞瀬 敦子

お願い

校長 眞瀬 敦子

1 学期の後期が始まって、ちょうど 1 週間が過ぎました。

夏休み後半のプールから、西門を使う人は学校の裏を通してホール門へ出る、という新しい登校ルートにはなっていましたが、何しろ子供が通ることなど想定されていない校舎裏です。300 人もの児童が一時にあの狭い所を通ったらどういう事になるのだろうか、と私達は大変心配して色々準備をしていました。

ところが初日こそ、あちこちに立った先生方の誘導に戸惑いながら校舎に入った子供達でしたが、翌日からは、通路の狭い部分でもぶつかったりもめたりすることもなく、友達と楽しそうに話しながらごく普通に教室へと向かっていくのです。

月曜日には初めての外での朝会というので混乱を想定し、専科教員は子供の並ぶ場所に印を付けたりコーンを置いたりして校庭で子供達を迎え撃ち、全学級は靴箱のところで溜まったり寄り道したりしないよう、担任の誘導の下に校庭へ出る、という万全の体制を取っていましたが、これまた嬉しい肩透かし。子供達は先生の指示に従って、落ち着いて素早く校庭に並ぶことができました。谷原っ子たちの順応性の高さ、規範意識がしっかりしていることを誇らしく思った 1 週間でもありました。

31 日に家庭科の一環として、5 年生が NPO 法人による食育の授業を受けました。(6 年生は 9 月 15 日)

朝ご飯を抜くことの弊害=①血糖値が下がるので脳が働かない。②体温が上がらないので体を動かさない。③体が飢餓感を覚えて次の食事の時に必要以上に脂肪を取り込もうとするため、太りやすくなる。だから、「早寝・早起き・朝ご飯」が大切なことを、楽しく学ぶことができました。

2 時間目には家族揃って楽しく食べることの効用、正しい食生活の大切さを学びましたが、その中で「1 年間の各月にみんなで食事をするとき」を書き出してみよう、というコーナーがありました。お正月のおせち料理から始まって、節分の豆、ひな祭りのちらし寿司…と、どんどん書ける子もいれば、全く思い浮かばない子もいて、個人差が大きいことを感じました。

「個食・孤食」の問題が言われて久しい現代ですが、子供達にとって家族と楽しく食事をする時間というのは、体だけでなく心を育てる大切な時間でもあります。お互いの学校や職場での愉快的話や失敗談、悩みや腹が立つことも、家族で分け合えれば乗り越えられます。

その中で私が是非保護者の皆さんに採り上げていただきたいのは、これからのエネルギーをどうするかとか、円高が何故起こり、どのような影響を与えるかといった、社会情勢に関わる話題です。勿論大変難しい内容ですから、正直私もよく分かりません。が、だからこそ大上段に構えるのではなく、生活の中で実感する“社会”を子供達にも伝えて、一緒にちょっと考えてみる事が大切なのではないかと思います。

保護者の皆様へ

工事で通路が狭くなったため、自転車での来校はおやめくださいとお願いしたにもかかわらず、30 日、31 日の保護者会では、正門に 60 台、西門に 10 台の自転車が置かれていました。特に正門は主事さんが仕事をすることもできない状況でした。万一子供が怪我をしたりしたときに緊急車両が通れる通路を確保するためのお願いです。職場から貴重な時間をやりくりして通勤用の自転車で駆けつけてくださっている方がいるのも十分承知しておりますが、子供の安全のためにお考えください。なお、西門の校舎寄りなら 30 台位は駐めるスペースがあることが分かりました。具合が悪くなったお子さんのお迎えなどは正門でも結構ですが、一時的に来校する場合は西門に自転車をお駐めください。

